

鎌倉病院通信

令和3年11月（第3号）

【今号の内容】

- ・皮膚科診療のご案内
- ・インフルエンザワクチン接種のお知らせ
- ・オンライン講演会のお知らせ



皮膚科診療のご案内



令和3年6月より赴任しました侯建全(こう けんぜん)です。皮膚の病気全般を対象に診察しており、特に皮膚アレルギーを専門にしています。診断の困難な疾患に対しては、採血や皮膚生検を行い、“正確な診断”、“適切な治療”へと進めるように努力をしています。紹介状などは必要ありませんので、お気軽にいらしてください。

主な対象疾患

- 湿疹・皮膚炎群（アトピー性皮膚炎、かぶれ等）、蕁麻疹、全身型金属アレルギーなど
- 自己免疫疾患（自己免疫性水疱症、膠原病の皮膚症状（潰瘍を含む）、血管炎など）
- 尋常性乾癬、膿疱性乾癬、乾癬性関節炎
- 皮膚外科（良性腫瘍、皮膚がん、褥瘡、難治性皮膚潰瘍など）
- 感染症（水虫・とびひ・ヘルペス・带状疱疹・蜂窩織炎など）
- アナフィラキシー

- ・外用剤や内服薬による治療はもとより、可能な限りにおいて原因検索を行います。アトピー性皮膚炎に対しては、最新の治療方法についても対応しています。
- ・重症な場合には他病院にご紹介出来ます。
- ・アナフィラキシーのアレルゲンの精査を行っています。治療薬であるエピペンの処方も可能です。特別に重症、特異な病態の際は受け入れが可能かどうか予め皮膚科へご連絡下さい。

皮膚科診察日 **毎週水曜日**（午前・午後）

担当医：侯 こう 建全 けんぜん 先生（詳しくは病院受付まで）

インフルエンザワクチンを接種しましたか



インフルエンザワクチンの接種を受け付けています。

今年も本格的な冬のインフルエンザが流行する前にインフルエンザワクチンの接種が始まりました。昨年は多くの方は接種したと思いますが、今年はもう接種されましたか？

インフルエンザは今年流行するの？

去年はインフルエンザが流行しませんでした。昨年インフルエンザの流行を抑えられたのは新型コロナウイルス感染症対策で普及した手指衛生やマスク着用、三密回避、人の移動制限等の感染対策がインフルエンザの感染予防に効果的であったと考えられます。では、今年はどうでしょうか？日本の冬のインフルエンザの流行を予測するときに、南半球（オーストラリア）の状況が参考になりますが、今年はインフルエンザの患者は少ないと予測されています。

しかしバン格拉ディッシュやインドではインフルエンザワクチンの接種が普及しなかったことが原因で2021年夏季に流行しています。その南アジアのウイルスが国内に持ち込まれることも考えられるため、日本感染症学会では“2021-2022 シーズンにおいても、インフルエンザワクチンの積極的な接種を推奨します。”とされています。

どんな人が接種した方がいいの？

基本的には生後6か月以上の方で、インフルエンザワクチンを接種できない方以外は全員にワクチン接種が推奨されます。

特に以下に該当する人はインフルエンザに罹患した場合の合併症のリスクが高いことから積極的に接種することが推奨されます。

- 6か月以上5歳未満
- 65歳以上
- 妊婦
- 慢性呼吸器疾患（気管支喘息など）
- そのほか基礎疾患のある方

他のワクチン打っていても接種できるの？

新型コロナウイルスワクチンを接種した後もインフルエンザワクチンは接種できます。海外ではコロナワクチンとインフルエンザワクチンを同時に接種している国もありますが、国内ではコロナワクチン接種してから2週間後から接種できるようになっています。ワクチンの種類によっても間隔が異なります。医師や職員にお尋ねください。

コロナにかかっても接種できるの？

コロナにかかった人でも濃厚接触者になった人でもインフルエンザワクチンは接種できます。それぞれ観察期間が終了してから接種を行います。他にもご不明な点があれば医師や職員にお尋ねください。

予防接種に関するQ&A（ワクチン産業協会）

2021-2022年シーズンにおけるインフルエンザワクチン接種に関する考え方（日本感染症学会）

オンライン講演会のお知らせ

テーマ：肩腱板断裂の手術について
（関節鏡手術から人工関節まで）

出演：三松興道院長

配信予定日：12月中旬



詳しくは、[当院ホームページ](#)、[フェイスブック](#)にて

次号は2月頃発行予定です